

日帰りそけいヘルニア手術を受けられる方へ



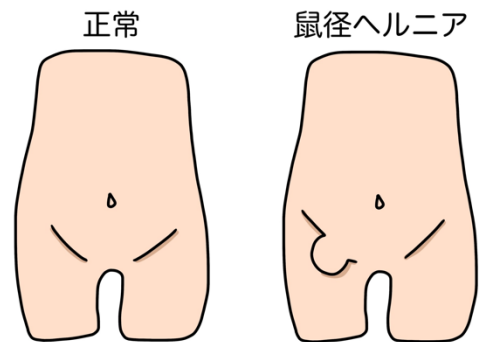
南大阪病院外科ではそけいヘルニア（脱腸）に対し、腹腔鏡を使って体に負担をかけず小さな傷で済む日帰り手術を行っています。

本説明書は日帰り手術を受けられる方のための説明書で、手術までの経過やそけいヘルニアについて解説します。

① はじめに：そけいヘルニア（脱腸）について

そけいヘルニア（脱腸）は足の付け根（いわゆる鼠径部（そけいぶ））がふくらんでくる病気で、脱腸と呼ばれることもあります。

お腹の筋肉の一部に穴が開いてしまい、その部位からお腹の外に腸やお腹の中の脂肪が皮膚の下に飛び出したものです。そのお腹の穴は自然に閉じることはありません。ご高齢の方では筋力の低下により穴が



大きくなり、下腹部の膨隆を自覚される方が多くなる傾向にあります。また、重いものをよく持ちお腹に力を入れることの多い方や咳をすることが多い方によく見られます。

② そけいヘルニアを放っておくとどうなる？

そけいヘルニア（脱腸）は、ご自分で足の付け根が膨らむことに気づき受診される方が多いですが、稀には他の症状で病院を受診され



お腹の検査をした際に診断される方もおられます。しかし、多くの方では痛みもなく日常生活に支障がないため、気にはなりますが受診されない方も多い特殊な疾患

です。

そけいヘルニア（脱腸）は一度なってしまったら自然に治ることはありません。通常は年齢を経るごとに大きくなります。また放置すると、大腸や小腸が穴に入り込んで抜けなくなる、嵌頓（かんとん）と呼ばれる状態になる場合があります。この様な状態になると飛び出した腸管が締め付けられ、腸管への血流が途絶えて腸管が壊死し、腸穿孔から腹膜炎に至ることもあり緊急手術になり得ます。治療が遅れると、命に関わる状態にもなる可能性がありますので、下腹部の膨隆にお気づきの場合は受診をお勧めします。

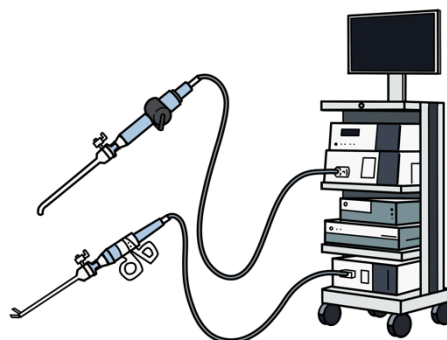
③ 治療（手術）について

保存的に経過をみるための器具としてヘルニア帯（バンド）などがありますが、全く無効であり危険な面も多々あり使用はお勧めしません。そけいヘルニアを治療可能な手段は外科的治療しかありません。以前はそけいヘルニアの穴を閉めるために、お腹の筋肉を糸で縛って引き寄せていたのですが、この術式では痛みが強く術後は活動性が制限されることが多々ありました。現在では術式が異なっており、メッシュという薄い膜状の人工物で穴を塞ぐ術式が行われます。さらに、その術式には腹腔鏡を使った手術と従来法と呼ばれるそけ

い部切開法の2種類があります。

1.腹腔鏡をつかった手術

腹腔鏡手術はお腹に細い管を入れて、炭酸ガスでお腹を膨らませて空間を作り、様々な細い手術器具を入れて行う手術



で、術者が直接患部に触ることができま

せんが、患部を詳細に観察できることが特徴です。そけいヘルニアに対する腹腔鏡手術はお腹に3ヶ所に管を入れて、お腹の内側から筋肉にできた穴をメッシュで覆うという術式です。傷が小さく痛みが軽度なことと、もし反対側にヘルニアがあっても同時に手術が可能なのが特徴です。

2.鼠径部切開法

下腹部を3~4 cm切って、筋肉の穴に到達しメッシュを敷きます。

メッシュをお腹の皮下脂肪と筋肉の間に敷くか、筋肉とお腹の内臓を包んでいる膜(腹膜)の間に敷くかなどの様々な術式があります。



④日帰りそけいヘルニア手術のスケジュール

1.初診

ご自分でそけい部の膨隆を自覚された場合や他院でそけいヘルニアを疑われ来院いただきますとまず、そけい部の診察をさせていただきます、CT 検査などを行います。そけいヘルニアの診断が確定し、手術に同意いただければ手術日を決めて全身麻酔や手術のための検査を行います。

2.手術の説明・手術に向けて準備の説明

手術のご説明、手術当日に注意していただくことをご案内いたします。また、麻酔科の医師の診察と麻酔の説明があります。わからないことや気になることがございましたら遠慮なくお聞きください。

3.手術当日

手術当日にお話させていただいた時間に何も召し上がらないでお越しください。朝、再度体調の確認とコロナ感染の検査をさせていただきます。病室に入ってください、手術用のガウンに着替え、手術場に向かいます。

手術開始に際し、まず麻酔をかけます。麻酔をかけてから覚めるまで麻酔の専門医が責任を持って全身管理しますのでご安心ください。

術後、病室に戻り数時間お休みになってからもう一度診察をさせていただきます、傷を見せていただいた後にお帰り頂けます。

4.1 週間後に再診

創部がきれいにふさがっていることを確認させていただきます。問題なければ以降は外来通院もありません。

⑤ 術後合併症

そけいヘルニアに対する手術後の合併症は比較的少ないですが、やはり手術ですので合併症が生じる可能性があります。そけいヘルニア手術の術後には以下の合併症がおこる可能性があります。

1) 漿液腫（しょうえきしゅ）

手術でヘルニアの原因となる穴（筋肉の隙間）に空間が残るため、その部位に液体が溜まることがあります。こうして体液が太ももの付け根部分に溜まって、しこりやこぶのようになった状態が漿液腫です。

体液が溜まってしまうと、膨らみができるため、鼠径ヘルニア（脱腸）が治っていないと勘違いされる患者様もいらっしゃいます。発症する時期の目安は、手術当日～2週間程度です。この漿液腫はほとんど

の方で時間の経過とともに吸収され消失します。

2) 血腫 (けっしゅ)

手術を行った傷の内部で術後に出血が起きた状態です。手術の際には、止血されていることを確認した上で手術を終了していますが、ごくまれに傷を閉じた後に再度出血が起こることがあります。出血が少量の場合は、腫れは自然



に引いていきますが、出血が多い場合は再度傷口を開き止血を行う可能性があります。

3) 感染

手術中には抗菌薬を使用して感染予防を行いますが、創部に皮膚からの細菌が入り込み感染が起こることがあります。手術後すぐに発症することもあるが、数週間～数年経って起こる場合もあります。手術中に使用したメッシュに感染が起こると、メッシュを除去する必要がある場合もあります。

4) 疼痛 (とうつう)

手術後、数日間の痛みはある程度やむを得ませんが、近年では鎮痛薬も種類が増え、効果も高くなってきたので、以前と比べて術後の痛みが楽になってきたようです。



ただし、手術から何週間も経ってい

るのに痛みや違和感がひどい場合は、太ももの付け根（鼠径部）を支配する神経の障害や、手術の際に使用したメッシュの異物感が原因として考えられますので、早めに受診してください。発症する時期の目安は手術後から数週間です。

帰宅後創部に異常がある場合や、外来通院終了後に創部が気になる
とか痛みがあるなどの症状がある方は、予約センターまで連絡ください。

問い合わせ先：南大阪病院外来予約センター

受付時間：平日：8:30～17:00 ・土曜日：8:30～15:00

連絡先：予約センター：06-6683-9416

受付時間外は、救急外来まで（連絡先：06-6685-0221（代表））連絡してください。